

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====

◆◇-----◆ NEE Mail Magazine 116号 ◆

-----2018-9-3◆◇

九月、長月になりました。

最近では8月末から新学期の地区や学校も増えていますが、やはり新学期は区切りとしていいものです。今年の夏の猛暑は記録的でした。そのなかでも「先生のための経済教室」では先生たちが頭の汗を流しました。二学期には、多くの学校で経済分野の学習がはじまります。勉強や行事にふさわしい秋冷の季節、今度は、生徒が頭の汗を流す授業が展開できるようにしてゆきたいものです。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

18年8月の活動やニュースを報告します。

【2】イベントカレンダー・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント 問いの立て方を「チョコちゃん」から学ぶ

【1】最新活動報告

■「先生のための夏休み経済教室」が終了しました。

(1)2018年先生のための夏休み経済教室は、今年も多数の先生の参加をいただき無事終了しました。本年度の参加人数は以下の通りです。()内は昨年。

8月2日(木)	名古屋中学向け	50名(42名)
8月3日(金)	名古屋高校向け	40名(53名)
8月6日(月)	大阪高校向け	105名(79名)
8月7日(火)	大阪中学向け	102名(97名)
8月9日(木)	東京高校向け①	142名(172名)
8月10日(金)	東京高校むけ②	124名(146名)
8月16日(木)	東京中学向け①	145名(167名)
8月17日(金)	東京中学向け②	129名(159名)

合計 837名(915名)

(2)参加者数は昨年に比べ減少(△78名)しました。

会場別では、東京高校が減、東京中学が増、大阪会場は増、名古屋会場は減でした。東京高校の減は新学習指導要領の伝達講習などがこの時期にあったことも要因とも考えられます。

(3) 今回は、授業づくりの舞台裏を紹介することをメインとした企画を多く提供しました。また、各部会で検討を経た授業提案をしてゆくという流れが定着しています。提出されたアンケートの分析などを踏まえて、本年度の総括と来年度への取り組みを行なってゆく予定です。

(4) なお、講義内容の記録は整理ができ次第 HP にアップいたします。

【 2 】イベントカレンダー

<イベント予定です。(開催順)>

■経済教育ワークショップ【北見】(既報)

2018年10月9日(火) 北海道北見北斗高等学校で行います。

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.102)を開催します

日時:2018年9月15日(土) 14:00~16:30

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

■札幌部会(No.20)を開催します

日時:2018年9月15日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム

<関係団体のお知らせです。>

■読売中高生新聞高校生1万人アンケート(既報)

ネットワークの活動を支援していただいている読売新聞社のアンケート「中高生1万人『平成時代』アンケート。締め切りは9月12日です。

■金融広報中央委員会作文・小論文コンクール(既報)

締め切りは9月30日です。

<https://www.ron2018.jp/>

【 3 】授業のヒント

■問いの立て方を「チコちゃん」から学ぶ

夏の経済教室で紹介された多くのヒントから、今回は問いの立て方に焦点をあてます。

授業づくりの舞台裏に焦点をあわせようとした夏の教室。何人かの先生から生徒が授業に興味を示すための導入や、本論での質問が授業づくりには重要との指摘

がありました。そのなかで、筆者が共感を覚えたのは、東京中学の講義で、河原和之先生(立命館大学ほか講師)が「チョコちゃんに叱られる」というNHKの番組に問いの立て方のヒントがあると指摘されたところでした。

(1)「チョコちゃんに叱られる」という番組

「チョコちゃんに叱られる」はNHKが総合テレビで今年4月から金曜日の夜に(土曜日昼に放送の地域も多い)全国放送している雑学クイズ番組です。5歳の女の子の設定のチョコちゃんが、大人の回答者に意外な質問をして、答えられないと「ぼーっと生きてんじゃねえよ!」という5歳児とは思えない啖呵を切り、解答を言う。

それを受けて専門家が登場して解説をするという流れでつくられています。

CG(コンピューター・グラフィック)で作られた主人公のチョコちゃんの表情の変化や、声優の当意即妙のセリフ、なにより、そんなことを考えたこともなかったという意外な質問とその答えが面白く、人気番組になってきています。

ちなみに、これまでの質問事項と回答は、wikipediaで検索できます。(ネット検索でも内容の確認に役立つという例です)

筆者が一番“へー”と思った質問は、「プールに入るとなぜ目が赤くなるのか?」というものでした。もちろん、この手の意外性のあるものもありますが、「爪楊枝の頭のギザギザは何?」という質問もなかなか良い質問だと感心したものの一つです。

(2)チョコちゃんの問いの質

チョコちゃんの問いの何が良いか。それはだれでも回答ができるものだからです。いわゆる教科書的な知識の確認や、トリビアな知識を問うクイズ番組ではなく、普段見落としている問いを発掘してきて、それを問うところが違います。回答者や街で質問を受けている人たちの中には「お手上げ」という人もいますが、何らかの答えや反応が出る問いであるという点が多く、クイズ番組とは違うところです。知識番組では高学歴タレントが登場してそれを売り物にしているものもあります。そういう番組を教室にあてはめると、「先生ボクそれ知ってるよ」という優等生の発言が飛び交う教室になります。

そうではなく、誰でも考えて回答出来るという点で、河原先生流に言えば、ユニバーサル授業の入り口に置かれる、良い問いということになります。これは、ここから、もう一段深い学びにむかう可能性のある導入の問いといって良いでしょう。

(3)どんなところが使えるか

一番簡単なのは、授業の導入の問いとして、同じ問いを教室で使うことです。生徒の中にも番組を見ている者もいて、それで盛り上がるかもしれません。

次は、似たような問いを自分で準備してみることです。授業の導入やちょっとした息抜きのためにおもしろい問いができれば、その授業そのものを展開して

ゆくモチベーションが終える側も高まります。導入なしに、すぐに授業を始めるというのも授業展開のテクニックですが、やはり「はじめちよろちよろ」流が自然ではないでしょうか。

ジャンルの的には、生活習慣や民俗的なできごとで問いを探してみると意外に多くのチョコちゃん流の問いがでてくるはずです。

番組では、「お盆の盆って何？」とか、「なぜ線香をあげるの？」とか、「なぜ日本では花火は夏に多いの？」など年中行事や習俗にからむ問いが結構あがっていました。

(4) 発展させるために

私たちが授業で問いを使うとき、導入のおもしろい問いをさらに展開部分で深化させる問いが必要になります。その発展方向は二つです。

一つは、問いの質を深化させることです。それには、やはり知っているか知らないかではなく、「なぜそう考えるのか」、「どうしてそう考えたのか」という突っ込みがでてくるような問いを用意することが必要になります。このあたりは、もう番組では扱えない箇所です。

もう一つは、問いの範囲をひろげてゆくことです。例えば、楊枝の頭の例では、日本の林業の現状や課題に目をむけさせて、そこから問いを作ってゆくことが考えられます。また、こけしという回答から、こけしの由来(番組でもこちらの解説はありました)に目を向けてゆくということもあります。貿易問題、六次産業化、環境保護、中小企業の後継者問題、限界集落、生命倫理など、広げてゆく方向は多様です。

また、東西のうどんの味の違いはなぜという問いでは、江戸時代の流通に関する問いなどができそうです。

「チョコちゃんに叱られる」でほとんど扱われていないのは、政治、経済の領域の問いです。この分野で「ぼーっと生きてんじゃねえよ！」という啖呵が切れるような、いい問いを見つけられれば最高ですね。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

ネットワークのHPに「オープン討論室」というコーナーがあります。長年、私(新井)がブログのように使わせてもらっていました。それではならずと、

このコーナーを活性化するために、東京部会の有志メンバーで、授業に役立つ本を紹介しようということになりました。近日中に第一回の投稿があるはずです。行動経済学と言うコミットメントです。経済教育の「伝統継承」という点で、注目してみてください。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇